



TITLE:

ジャワ島の地方行政区畫：歴史的概観

AUTHOR(S):

深見, 純生

CITATION:

深見, 純生. ジャワ島の地方行政区畫：歴史的概観. 東洋史研究 1991, 50(2): 304-339

ISSUE DATE:

1991-09-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/154360>

RIGHT:

ジャワ島の地方行政区畫

—— 歴史的概観 ——

深 見 純 生

第一節 はじめに

第二節 ヨーロッパ人行政区畫

(a) 省の設立と地方分權政策

(b) 州・分州・監督官區

第三節 原住民行政区畫

(a) 縣と郡・分郡數の變化——概観

(b) 獨立パティ

(c) 縣の變遷

(d) 郡と分郡

第四節 むすびにかえて

(a) 地方行政区畫の標準化

(b) 原住民行政首長の人數

第一節 はじめに

オランダ植民地主義とインドネシア民族主義の產物であるインドネシア共和國は數百といわれる多數の民族を含んでお

り、もともと人々の間にインドネシア人としての自己認識が無前提に存在するわけではない。そのようなものがあるとするれば、それは同一の政府の統治下にあること、インドネシア政府の強力な國家統合・國民統合の努力、インドネシア語という「共通語」の存在と機能、そして獨立後數十年を経て今や「インドネシア生まれ」と言えるような現代文化による社會統合の產物と言つてよいであらう〔永積 1980；土屋 1988 参照〕。「多様性の中の統一」が國是とされながら、現在實際には、村レベルにまで至る地方行政制度の畫一化など、多様性を無視するようにも思われる、國家統合・國民統合の努力が政府によって推進されている〔Kato 1989 参照〕。この政府による地方行政制度の標準化の意味は、植民地期、日本軍政期、そして獨立後という三つの時代を通じての變化と持續という問題として捉えることによって一層明らかになると思われる。本稿は今後の研究のための前提として、第一に、現在の行政區畫の構成と比較しつつ、一八七四年から一九四五年までの植民地時代最後の約七〇年間のジャワ島における地方行政區畫の種類と數の變化を具體的に跡づけ、第二にその變化の過程を研究しようとする時にどのような問題點があるかを提示しようとするものである。一八七四年というのはジャワ島のほぼ全域に分郡が設置された年であり、一九四五年は言うまでもなく三年半の日本軍政が終わり、インドネシアが獨立宣言を發した年である。

本稿は現在の行政區畫の原型を作ったと考えられるジャワ島の直轄領を扱う。オランダ時代末期の最上級行政區畫で言へば、王侯領（*Vorstlanden*）と總稱されたスラカルタ知事省、ジョクジャカルタ知事省を除く、西ジャワ省、中ジャワ省、東ジャワ省の三省の地域である（第二節(a)参照）。直轄領の中に政廳の權限が制限されている私領地（*Particuliere Landeijen*）があつたが、これは煩雜を避けるため本稿では對象外としたい。

オランダ時代の主な資料は次の二つである。各年版の『政廳要覽（*Regeringsalmanak*）』の「内務部（*Departement van Binnenlands Bestuur*）」の部分に郡レベル以上の行政區畫と行政官吏の名前が示されている。ただし郡長の名前が擧げられるのは二〇世紀になってからである。『政廳要覽』に擧がっているのは、年によって若干異なるようであるが、おおむね

表1 行政区畫對照表

	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
N	Provincie 3	Residentie 17	Regentschap 67 Stadsgemeente 18	District 350	Onderdistrict 1205
	Gouvernement 2	Residentie 2	Regentschap 12	District 41	Onderdistrict 181
J	なし	Syuu [州] 17	Ken [縣] 67	Gun [郡] ?	Son [村] ?
		Tokubetu Si [特別市] 1	Si [市] 18		
		Koti [侯地] 2	Ken [縣] 10	Gun [郡] ?	Son [村] ?
I	Provinsi 3		Kabupaten 82		Kecamatan 1637
	Daerah Khusus Ibukota 1	なし	Kotamadya 24	なし	
	Daerah Istimewa 1				

出典・註 N＝オランダ時代（1941年初）〔*Indisch Verslag* 1941 II:463〕。

出典が異なるので、表5、6の数字と少し異なる。

J＝日本軍政期（1942年8月末）〔全ジャワ回教状況調査書：139—340；早稻田：141〕

I＝現在（1988年）〔*Statistik Indonesia* 1988: 5〕。

前年一月頃の状況である。たとえば一九四二年版『政廳要覽』には一九四一年一月頃の行政区畫と行政官の名前が記されていると考えられる。この資料は『RA』と略記する。たとえば『RA1942 I:172』は一九四二年版の『政廳要覽』第一卷一七二頁である。分郡レベル以上の行政区畫の改編は『東インド法令集 (*Staatsblad van Nederlandsch-Indie*)』によって逐一跡づけることができる。この資料は『Stb.』と略記する。たとえば『Stb. 1925—104』は一九二五年の法令第四〇四號を意味する。なお『RA』や『Stb.』にはしばしば州や省ことの、あるいはジャワ全島の分郡レベル以上の行政区畫一覽表が附載されている。

日本軍政期については資料が不完全であるが、本稿では『治官報』、*Kan Po*、そして一九四二年八月末現在の状態を示す『全ジャワ回教状況調査書』⁽¹⁾によった。

本論に入る前にオランダ時代末期（一九四一年一月一日）、日本軍政期（一九四二年八月末）、現在（一九八八年）の行政区畫の種類と數を概観しておきたい。各々N、J、Iとして一覽表にしたのが表1である。各行政区畫の本稿における譯語を表2にま

表2 本稿における譯語

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
N	省	州	縣市	郡	分郡
	知事省	州	縣	郡	分郡
J	なし	州 特別市	縣市	郡	ソン〔村〕
		侯地	縣	郡	ソン〔村〕
I	省 首都特別區 特別州	なし	縣市	なし	クチャマタン

とめてある。この表のレベル5の下は行政村 (Desa) であり、その数はNの直轄領で約二萬 (正確にはバターフィア、バイテンゾルフ兩州内の私領地、バターフィア、バイテンゾルフ、スマラン、スラバヤ各市、バンドゥン郡、チルボン郡を除いて一八、三三七)、王侯領で二、四六六であり [Indisch Verslag 1941 II: 463]、日本軍政期については二侯地 (王侯領) の二、四三四を含めて合計一九、四九八という一九四四年四月末の數字があり [Asia Raya 一九四四年六月二〇日附]、現在は二四、六〇一である [Statistik Indonesia 1988: 5]。

表1のNIIオランダ時代末期のジャワ島の直轄領は三省一七州一六七縣・一八市一三五〇郡一、二〇五分郡というヒエラルキーになっている。州と縣の名稱と數は表3、4に、各縣の郡と分郡の數は表5、6に示されている⁽²⁾。

日本軍政期にインドネシアは三分割され、ジャワ島は陸軍第一六軍、スマトラは陸軍第二五軍、その他の地域はおおむね海軍の軍政下におかれた。全體に共通する基本方針の一つに「極力残存統治機構を利用」することがあった。根本的な地方行政機構の改編はなかった [早稻田: 115]。ジャワ島では名稱の變更 (表7) のほかに、(1)三省が廢止され (ただし後に三つの軍政支部が設けられる)、(2)州に準じる権限を持つ特別市の制度が新設されるという變化があった。實際に特別市になったのはジャカルタだけであった。行政區畫の名稱は表1にあるようにすべて日本流に改められた。とくに元の分郡 (現在のクチャマタン) が「ソン〔村〕」、元の (および現在の) 行政村が「ク〔區〕」と呼ばれたことは混亂を生じやすい用語として注意を要する。

現在の行政区畫はジャワ島だけでなく全國一律に①省、②縣・市、③クチャマタン、④行政村(Desa)の四レベルとされ、その數は全國で①二七、②二四一・五五、③三、六〇一、④六六、九七九である [Statistik Indonesia 1988: 5]。オランダ・日本時代の州と郡がなくなつて簡素化され、王侯領(および私領地)がなくなつて標準化が進み、さらにとくに一九七九年の村落行政法の施行により行政村の畫一化が全國レベルで推進されている [Kato 1989]。

第二節 ヨーロッパ人行政区畫

(a) 省の設立と地方分權政策

オランダ時代と現在のジャワ島の第一級行政区を比較すると、オランダ時代の三省が繼承されると同時に、次の三つの變化があつた。(1)首都特別區大ジャカルタが第一級行政区とされ、(2)王侯領が廢止されて舊スラカルタ知事省がなくなり中ジャワ省に含まれ、(3)舊ジョクジャカルタ知事省は現在ジョクジャカルタ特別州とされている。

ジョクジャカルタは、周知のように、獨立戰爭期にインドネシア共和國の首都が置かれたところでもあり、獨立戰爭への貢獻大として特別區の地位を與えられ、舊ジョクジャカルタ王家のスルタンがその知事(Gubernur)とされている。

日本軍政初期に三省が廢止されたのは、ジャワだけが陸軍第一六軍の下の一つの行政單位となつたために「屋上屋を架するの嫌あり」としてであつた [早稻田: 136]。しかし、一九四五年度の治政令第八號(三月二五日公布、四月一日施行)によりバンドウン、スマラン、スラバヤの三市に各々西部、中部(侯地を含む)、東部ジャワを管轄とする軍政支部が設けられた。設置の目的は、「地方に於ける經濟行政、防衛(軍防衛を除く、以下同じ)其の他之に關聯ある業務を綜合運営し自戦自給の態勢を整備する爲」とされている [『治官報』28: 1—3]。これら軍政支部とオランダ時代およびインドネシア共和國の省の權限と機能の異同は今後明らかにすべき問題だが、獨立後に三省を設立する前提が復活していたと見てよさそうである。

他方、州に準じるものとして、また州と同時にジャカルタ特別市が設置された（布告第二七、二八號、一九四二年八月一日公布、八月八日施行）『治官報』1:10—12³。その範圍は舊バタヴィア縣（日本軍政期にジャカルタ縣、さらにタンゲラン縣と改稱）の六郡のうちのバタヴィア郡（後にコタラマ市區と改稱）とウェルトウフレードン郡（後にガンビル市區と改稱）、そして舊メーステル・コルネリス縣（ジャティヌガラ縣と改稱）のメーステル・コルネリス郡（ジャティヌガラ郡と改稱）の一部であった『治官報』2:4; 14:27⁴。現在の第一級行政区としての首都特別區大ジャカルタは、規模や権限で違いがあるとしても、ジャカルタ特別市の繼承者と考えられよう。日本當局がオランダ時代でない特別市という制度を新たに作った理由は筆者には不明である。あるいは當時の東京市、現在の東京都のような位置づけを考えていたのかもしれない。

オランダ時代の西ジャワ省は『Stb. 1925—378』により一九二六年に、中ジャワ省は『Stb. 1929—227』により一九三〇年に、東ジャワ省は『Stb. 1927—558』により一九二九年に設立された。省制度は、東インド植民地をいくつかの、各々かなりの規模の省に区分し、省の内部問題に關しては總督から権限を委譲し、省評議會議長を兼ねる省知事がこれを行うというものであり、オランダはこの省制度を東インド植民地の地方統治制度の最終的な形態として、長期的には外島にも導入する意圖を持っていた。省は行政区畫であると同時に、自治體首長としての知事（Gouverneur、總督に任命される）と議會（選舉權と權限は非常に制限的である）を持つ自治體であった〔ENI V:85—86; RA1942 I:159—163〕。すなわち省の設立は單なる最上級の地方行政区畫の設立ではなく、二〇世紀初頭に始まった地方分權政策の重要な一環であった。

地方分權政策のうち行政区畫の改編に深く關わるものに自治體の設立といわゆる「脱後見化（Ontvoogting）」政策がある。自治體としての市と州が一九〇三年の「地方分權法 Decentralisatiewet」〔Stb. 1903—329J〕に基づいて一九〇五—一九一〇年頃に順次設立された。市の議會としてジャワ島に一九の都市評議會（Gemeenteraad⁽³⁾）州の議會として一五の州評議會（Gewestelijke raad）が設立された〔Visman Verslag I:134—135〕⁽⁴⁾。その後一九二二年の「行政改革法（Bestuursvermingswet）」〔Stb. 1922—216J〕に基づく措置として自治體としての省と省評議會（Provinciaal raad）縣と縣評議會

(Regentschaps raad) が設けられるようになり、同時に自治體としての州と州評議會は廢止されることとなる。なお縣の行政首長であるブパティ (Bupati, オランダ語ではレヘント Regent, 總督により任命される) が自治體首長を兼ね、縣評議會議長を兼務した [ENI V: 91ff., 358—359]。なおまたこれら地方議會が中央議會の體裁を持つ總督の諮問機關として一九一八年に開設されたフォルクスラート (Volksraad) の選舉議員の選出母體となった。

「脱後見化」政策はヨーロッパ人行政、具體的には州長官 (Resident, 理事官またはレジデントとも譯される) から原住民行政、具體的にはブパティに一定の行政權限を委譲し、ブパティ以下の原住民行政の「獨り立ち」を促進しようとするものである。すなわちヨーロッパ人行政官は「原住民の成熟に應じて」徐々に身を退くべきであるとする、倫理政策の重要な柱である原住民自治政策の一環であった [Kleinjies II: 30—31; ENI V: 308]。一九一八年に『Stb. 1918—674』でその實施が定められ、『Stb. 1918—675』でチアンジールのブパティに試験的に適用され、順次これに耐えうると判斷されたブパティに適用され、一九二四年までに二〇縣で實施されている [RA1925 I: 121—122]。委譲すべき權限の内容は『Stb. 1921—310』で統一的に定められた (以後何度か修正された)。

原住民行政のヨーロッパ人行政からの自立という「脱後見化」は、廣い意味での地方分權政策の一環ではあるが、オランダからバタヴィアへの上級統治權限の委譲およびバタヴィアから地方への行政權限の委譲という地方分權政策とは本來性格の異なるものであった。しかし、自治體としての省と縣の設立にともなう措置として、『Stb. 1925—681』で西ジャワ、『Stb. 1928—344』で中ジャワと東ジャワのまだ「脱後見化」されていない縣もすべて「脱後見化」されたことにより、元來性格の異なる二つの政策が統合された。なお「脱後見化」政策はヨーロッパ人行政は徐々に後退し究極的には消滅すべきとするもので、これに對するヨーロッパ人行政官からの反動が一九三〇年代初めに明らかになる (b) 参照)。

(b) 州・分州・監督官區

オランダ時代末期のヨーロッパ人行政區畫は省—州だが、省設立以前は州—分州—監督官區という構成であり、州（理事州とも譯される）が第一級地方行政區畫であつた。

一八七四年以前、州は様々な改編が行われている。たとえばクラワン州はイギリス中間統治（一八一—一六六年）後まもなく『Stb. 1818—53』でブリアンガン州から分離されて州になるが、『Stb. 1836—24』で廢止されてバイテンゾルフ州に編入される。『Stb. 1866—5』で再度クラワン州となり、結局『Stb. 1900—334』で廢止されてバタヴィア州に編入される。またバリュワンギ州は『Stb. 1836—24』でブスキ州に編入され、その後『Stb. 1866—5』でブスキ州から獨立するが、『Stb. 1883—123』で再びブスキ州に編入されている。

本稿が對象とする一八七四年以後では、州長官の權限の變化はともかくとして、行政區畫としての州の改編は多くない。上記のやうに『Stb. 1883—123』でバリュワンギ州がブスキ州に編入され、ジャワ島の直轄領の州は二〇になった。この『Stb. 1900—334』でクラワン州がバタヴィア州に、トゥガル州がブカロンガン州に、ジュバラ州がスマラン州に、バグレン州がクドゥ州に、プロボリンゴ州がパスルアン州に各々編入され、一五州となった。

その後は省設立まで變化がない。省設立とともに西ジャワ九、中ジャワ一（『Stb. 1929—2』で二二になる）、東ジャワ一五、合計三六州と大幅に増加するが、一九三—三四年には一七州に整理される。この一七州を省設立前の一五州と比べると、(1)バタヴィア、ブリアンガン二州がバタヴィア、バイテンゾルフ、ブリアンガンの三州に再編成され、(2)スマラン、レンバン、スラバヤの三州がスマラン、ジュバラ、レンバン、ボジョヌゴロ、スラバヤの四州に再編成されたことがわかる。後者の再編成では舊レンバン州が中ジャワ省と東ジャワ省に分割されているが、元の州が二省に分割されたのはこの場合だけである。

日本軍政期にも同じ一七の州があつたが、既に述べたやうに州に準じる權限を持つジャカルタ特別市が新設された。⁽⁵⁾州はインドネシア獨立後に廢止されているが、その具體的な事情は筆者には不明である。

省設立以前、州の下位のヨーロッパ人地方行政区畫として副理事官 (Assistant Resident) が統治する分州 (Afdeling)⁽⁹⁾があった。一分州＝一縣の場合が多いが、一分州に二縣の場合や、逆に一縣が二分州の場合もあり、やや煩雜である(第三節(b)参照)。

分州は監督官 (Controleur)⁽⁷⁾ないし監督官補 (Aspirant Controleur) が駐在する一、二(例外的に四、五)の監督官區 (Controleaflading) に分かれる。これがヨーロッパ人行政区畫の末端であり、一監督官區にふつう三、四郡が屬した。州都所在地の分州の統治は副理事官でなく、州長官自身が行うのが通例であり、同様に分州の首邑のある監督官區は副理事官が監督官の職務を兼務するのが通例である(州都所在地の監督官區には監督官が配置される)。

分州と監督官區の數はたとえば一九〇〇～一九〇一年の一連の地方行政制度の改革後は七八と一四四、『RA1910』では七七と一四六、『RA1920』では七三と一三三である。『RA』または『Stb.』をたどると、州の改編が二〇世紀に入ってからあまり多くないのに對し、監督官區の改編はかなり頻繁であつたことがわかる。たとえば『Stb. 1900—3』のジャワ島の監督官の定員は一一五人(外島は一四二人)とされたが同じ年の『Stb. 1900—183』では一一一人になっている。

省設立にともなつて州が一五から三六に増えた一方で、分州と監督官區は廢止され、副理事官は州長官の代理として各縣首邑に配置されるようになり、監督官の場合は監督官という職制自體が廢止された。しかしまもなくヨーロッパ人行政官からの反動があり、新タイプの副理事官とブパティの關係、ヨーロッパ人行政官の役割、これと原住民吏との役割分担のあり方などをめぐる意見の對立の中から、監督官の職制は一九三一年一〇～十一月頃に復活し、副理事官に一人または二人の監督官が附置されるようになる[*Sutherland* 1979:118—120; *RA1932*]。もっとも、その後州が三六から一七に減り、監督官の人數も徐々に削減された。一九四一年にたとえば縣の數が二七である東ジャワ省では副理事官二九人(うち二人はスラバヤとマランの州長官附き)、副理事官附きの監督官は一八人であつた(他に州長官附き祕書官として七人)〔*Stb. 1941—46*〕。

第三節 原住民行政區畫

(a) 縣と郡・分郡數の變化——概観

植民地時代末期の第三、四、五級地方行政區である縣、郡、分郡が原住民行政の區畫であり、分郡長とその職員までが政廳から俸給を受ける官吏である。その下の行政單位である行政村の村長と村役人は徴税など特定の國家業務の遂行に對する手當てを受けるが、國家から俸給を受けず、その俸給は行政村の負擔すべきものとされている。

表3〜6に行政區畫數の變化が示されている。表3の左端は縣の名前である。A〜J欄は表3では各縣の屬する州名（「ク」は同上を意味する）、表5では各縣に屬する郡（左）と分郡（右）の數である。☆は獨立パティ區（下記(b)参照）であることを示す。空白はその縣または獨立パティ區、郡、分郡がまだ存在しない場合であり、分郡の有無または數が不明の場合は「？」とした。「一」は廢止され存在しないことを意味する。なお表5のN欄の空白はその名前の縣が存在しないことを意味する（下記(c)参照）。表5、6にはインドネシア獨立後のクチャマタン數も示してある。なお縣と州の名前は、パターフィア（現ジャカルタ）、メーステル・コルネリス（現ジャティヌガラ）、バイテンゾルフ（現ボゴル）のオランダ語名の場合、當時の名稱に従い、その他は現在の名稱と綴りに従っている（たとえば Cirebon は資料では Cheribon と綴られることが多い）。A〜J欄の典據は註に示すが、次に若干の説明を加えておきたい。

A. 一八七四。『Stb. 1874—72』で分郡がジャワ島のほぼ全域に設置され、『Stb. 1874—73』にジャワ島直轄領全域の州一縣または分州一郡一分郡の區分が掲載されており、これにその後數年間の變化を含めて示すものである。『Stb. 1874—73』ではパターフィア、プリアンガン兩州は除外されているが、他の資料から補った。マドゥラ州では當時バムカサン縣以外は自治領だったので除外されている。

表3 縣とその屬する州 1874~1942

西ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1934	J. 1942
Serang	Banten	Banten	Banten	Banten	Banten	Banten	Banten	Banten
Anyer	☆ "	☆ "	☆ "	☆ "	—	—	—	—
Lebak	"	"	"	"	"	"	"	"
Pandeglang	"	"	"	"	"	"	"	"
Caringin	"	"	"	☆ "	—	—	—	—
Krawang	Krawang	Krawang	Batavia	Batavia	Batavia	Krawang	Batavia	Batavia
Batavia				☆ "	☆ "	Batavia	"	"
Mr. -Cornelis				☆ "	☆ "	"	"	"
Tangeran				☆ "	—	—	—	—
Buitenzorg				☆ "	☆ "	Buitenzorg	Buitenzorg	Buitenzorg
Cianjur	Priangan	Priangan	Priangan	Priangan	Priangan	西Priangan	"	"
Sukabumi	☆ "	☆ "	☆ "	☆ "	"	"	"	"
Bandung	"	"	"	"	"	中Priangan	Priangan	Priangan
Cicalengka	☆ "	☆ "	—	—	—	—	—	—
Sumedang	"	"	"	"	"	"	"	"
Garut	"	"	"	"	"	東Priangan	"	"
Sukapura-kolot	☆ "	☆ "	—	—	—	—	—	—
Sukapura	"	"	"	—	—	—	—	—
Tasikmalaya	☆ "	☆ "	—	"	"	"	"	"
Ciamis	Cirebon	Cirebon	Cirebon	Cirebon	"	"	"	"
Cirebon	"	"	"	"	Cirebon	Cirebon	Cirebon	Cirebon
Kuningan	"	"	"	"	"	"	"	"
Indramayu	"	"	"	"	"	Indramayu	"	"

Majalengka	"	"	"	"	"	"	"	"
西ジャワ 計	5 州20縣	5 州20縣	4 州17縣	4 州21縣	4 州18縣	9 州18縣	5 州18縣	5 州18縣

中ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1933	J. 1935-42
Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan	Pekalongan
Batang	"	"	"	"	"	"	"	—
Pemalang	Tegal	Tegal	"	"	"	"	"	"
Tegal	"	"	"	"	"	Tegal	"	"
Brebes	"	"	"	"	"	"	"	"
Semarang	Semarang	Semarang	Semarang	Semarang	Semarang	Semarang	Semarang	Semarang
Salatiga	"	"	☆ "	☆ "	☆ "	—	—	—
Kendal	"	"	"	"	"	"	"	"
Grobogan	"	"	"	"	"	Blora	"	"
Demak	"	"	"	"	"	Kudus	"	"
Kudus	Japara	Japara	"	"	"	"	Jep. -Remb.	Jep. -Remb.
Japara	"	"	"	"	"	"	"	"
Juwana	"	"	—	—	—	—	—	—
Pati	"	"	"	"	"	Rembang	"	"
Rembang	Rembang	Rembang	Rembang	Rembang	Rembang	"	"	"
Blora	"	"	"	"	"	Blora	"	"
Banyumas	Banyumas	Banyumas	Banyumas	Banyumas	Banyumas	北Banyumas	Banyumas	Banyumas
Purwokerto	"	"	"	"	"	"	"	—
Purbolinggo	"	"	"	"	"	Purbolinggo	"	"
Banjarnegara	"	"	"	"	"	Wonosobo	"	"

Cilacap	//	//	//	//	//	南Banyumas	//	//
Karanganyar	Bagelen	Bagelen	Kedu	Kedu	Kedu	//	//	—
Wonosobo	//	//	//	//	//	Wonosobo	Kedu	Kedu
Purworejo	//	//	//	//	//	Bagelen	//	//
Kutoarjo	//	//	//	//	//	//	//	—
Kebumen	//	//	//	//	//	//	//	//
Magelang	Kedu	Kedu	//	//	//	Kedu	//	//
Temanggung	//	//	//	//	//	//	//	//
中ジャワ 計	8 州28縣	8 州28縣	5 州27縣	5 州27縣	5 州27縣	12州26縣	5 州26縣	5 州22縣

東ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1934	J. 1935-42
Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya	Surabaya
Sidoarjo	//	//	//	//	//	//	//	//
Mojokerto	//	//	//	//	//	Mojokerto	//	//
Jombang		☆ //	☆ //	//	//	//	//	//
Gresik	//	//	//	//	//	Grisse	Bojonegoro	—
Sidayu	//	//	//	—	—	—	—	—
Lamongan	//	//	//	//	//	//	//	Bojonegoro
Bojonegoro	Rembang	Rembang	Rembang	Rembang	Rembang	Bojonegoro	//	//
Tuban	//	//	//	//	//	//	//	//
Madiun	Madiun	Madiun	Madiun	Madiun	Madiun	Madiun	Madiun	Madiun
Magetan	//	//	//	//	//	//	//	//
Ngawi	//	//	//	//	//	//	//	//
Ponorogo	//	//	//	//	//	Ponorogo	//	//

Pacitan	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
Kediri	Kediri	Kediri	Kediri	Kediri	Kediri	Kediri	Kediri	Kediri
Nganjuk	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
Blitar	〃	〃	〃	〃	〃	Blitar	〃	〃
Tulungagung	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
Trenggalek	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—
Pasuruan	Pasuruan	Pasuruan	Pasuruan	Pasuruan	Pasuruan	Pasuruan	Malang	Malang
Bangil	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	—
Malang	〃	〃	〃	〃	〃	Malang	〃	〃
Probolinggo	Probolinggo	Probolinggo	〃	〃	〃	Probolinggo	〃	〃
Kraksaan	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	〃	〃	—
Lumajang	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	〃	〃	〃
Bondowoso	Besuki	Besuki	Besuki	Besuki	Besuki	Bondowoso	Besuki	Besuki
Besuki	〃	〃	—	—	—	—	—	—
Panarukan	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
Jember		☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	☆ 〃	Jember	〃	〃
Banyuwangi	Banyuwangi	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
Bangkalan		Madura	Madura	Madura	Madura	西Madura	Madura	Madura
Sampang		〃	〃	〃	〃	〃	—	—
Pamekasan	Madura	〃	〃	〃	〃	東Madura	〃	〃
Sumenep		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
東ジャワ 計	8 州29縣	7 州34縣	6 州33縣	6 州32縣	6 州32縣	15州32縣	7 州31縣	7 州27縣

出典・註 1. 出典は註 8 および『R A 1875, 1880, 1910, 1923, 1931, 1936, 1942』。

2. ☆は獨立パティ區。

表4 全ジャワ（直轄領）の州と縣の數

	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1933/4	J. 1935/42
西 ジャワ	5 州20縣 (☆5)	5 州20縣 (☆5)	4 州17縣 (☆2)	4 州21縣 (☆7)	4 州18縣 (☆3)	9 州18縣	5 州18縣	5 州18縣
中 ジャワ	8 州28縣	8 州28縣	5 州27縣 (☆1)	5 州27縣 (☆1)	5 州27縣 (☆1)	12 州26縣	5 州26縣	5 州22縣
東 ジャワ	8 州29縣 (☆2)	7 州34縣 (☆4)	6 州33縣 (☆4)	6 州32縣 (☆4)	6 州32縣 (☆3)	15 州32縣	7 州31縣	7 州27縣
全 ジャワ	21 州77縣 (☆7)	20 州82縣 (☆9)	15 州77縣 (☆7)	15 州80縣 (☆11)	15 州77縣 (☆7)	36 州76縣	17 州75縣	17 州67縣

出典・註 1. 出典は表3。

2. ☆は獨立パテヤ區の數（内數）。

3. 3地方の州の合計でレンバン州は中ジャワに數え、東ジャワの州の數にはレンバン州は含まれない（A.～E.）。

B. 一八八二。一八八二～一八八五年にはほぼ全ての州で行政區畫の改編があり、その結果を示す。

C. 一九〇〇。一九〇〇～一九〇一年の地方行政制度と行政區畫の大幅な改革の結果を示す。

D. 一九一〇。一九〇四～一九一三の間（多くは一九一〇～一九一三年）の一連の改編の結果を示す。

E. 一九二〇。一九一八～一九二二年の間の一連の改編の結果を示す。

F. 一九二九。『Stb. 1929—2』に示される、省—州—縣—郡—分郡の一覽表に基づくものである。この一覽表は各省設立時のもの（西ジャワ省は『Stb. 1925—404』、中ジャワ省は『Stb. 1928—146』、東ジャワ省は『Stb. 1928—145』）とはほとんど同じ内容である。ただし中ジャワ省は『Stb. 1928—146』では一州だが、『Stb. 1929—2』で北ベニョマス州からブルボリン州が分立し、二州になった。

G. 一九三三／一九三四およびH. 一九三五（表5、6）。一九三〇年代のいくつかの『Stb.』にある省ごとの行政區畫の一覽

表5 各縣の郡・分郡の數 1874~1942・1980

西ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1934	H. 1935	J. 1942	N. 1980
Serang	6 16	6 16	4 12	4 13	7 26	7 26	7 26	7 26	7 26	26
Anyer	2☆ 8	2☆ 8	3☆ 11	3☆ 11	— —	— —	— —	— —	— —	
Lebak	5 20	5 20	5 20	5 20	4 15	4 15	4 15	4 15	4 15	15
Pandeglang	5 16	5 20	4 17	4 17	4 15	4 16	4 16	4 16	4 16	16
Caringin	4 16	4 16	3 13	3☆ 13	— —	— —	— —	— —	— —	
小 計	22 76	22 80	19 73	19 74	15 56	15 57	15 57	15 57	15 57	57
Krawang	5 14	6 18	5 17	9 27	7 22	8 26	8 25	8 25	8 25	12
Batavia	7 ?	4 13	4 13	2☆ 6	5☆ 17	4 17	6 20	6 20	6 20	} 30
Mr. -Cornelis	4 ?	4 ?	4 ?	4☆ 12	4☆ 12	4 13	4 13	4 13	4 13	
Tangeran	3 ?	3 ?	3 ?	3☆ 7	— —	— —	— —	— —	— —	
小 計	19 14	17 31	16 30	18 52	16 51	16 56	18 58	18 58	18 58	59
Buitenzorg	5 ?	5 ?	6 ?	6☆ 14	7☆ 18	7 19	7 19	6 17	6 17	32
Cianjur	9 ?	9 29	8 24	8 24	7 18	7 17	6 18	5 17	5 17	17
Sukabumi	7 ?	7☆ 24	7☆ 24	6☆ 22	6 22	6 22	6 22	6 20	6 20	24
小 計	21 ?	21 53	21 48	20 60	20 58	20 58	19 59	17 54	17 54	73
Bandung	10 ?	9 34	10 36	10 37	10 37	10 30	10 29	10 29	10 29	53
Cicalengka	6 ?	6☆ 19	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	
Sumedang	6 ?	6 20	5 18	5 18	5 18	5 18	4 14	4 14	4 14	15
Garut	4 ?	4 12	9 30	9 29	9 29	9 29	8 23	8 23	8 23	23
Sukapura-kolot	7 ?	8☆ 24	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	

Sukapura	9	?	8	27	14	44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
Tasikmalaya	5	?	5☆	15	—	—	10	36	10	36	10	36	10	36	10	33	7	33	29
Ciamis	4	8	4	12	4	12	4	12	4	12	4	12	4	12	4	12	7	12	25
小 計	51	8	50	163	42	140	38	132	38	132	38	125	36	114	36	111	36	111	145
Cirebon	8	28	8	29	8	26	8	26	7	24	6	21	6	21	6	21	6	21	25
Kuningan	5	12	5	14	4	12	4	12	3	12	4	15	4	14	4	14	4	14	14
Indramayu	3	9	3	9	3	9	3	9	6	18	6	18	5	18	5	17	5	17	19
Majalengka	5	16	5	19	5	18	4	13	4	14	4	14	4	13	4	13	4	13	17
小 計	21	65	21	71	20	65	19	60	20	68	20	68	19	66	19	65	19	65	75
西ジャワ 計	134	163	131	398	118	356	114	378	109	365	109	364	107	354	105	345	105	345	409(442)

中ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1933	H. 1935	J. 1942	N. 1980
Pekalongan	6 17	6 21	6 21	6 21	6 21	6 21	6 20	10 29	10 29	18
Batang	6 19	5 18	4 16	4 16	4 13	4 13	4 13	— —	— —	12
Pemalang	5 14	5 17	5 17	5 16	5 16	5 16	4 14	4 13	4 13	13
Tegal	6 12	6 18	6 18	8 23	8 23	8 23	7 21	6 19	6 19	20
Brebes	5 15	7 24	7 24	5 16	5 17	5 18	5 16	5 15	5 15	16
小 計	28 77	29 98	28 96	28 92	28 90	28 91	26 84	25 76	25 76	79
Semarang	6 19	6 19	5 16	3 10	2 7	5 20	5 18	5 18	5 18	25
Salatiga	4 15	4 15	4☆ 15	4☆ 15	4☆ 16	— —	— —	— —	— —	
Kendal	6 19	6 19	5 18	5 18	5 18	5 18	5 17	5 17	5 17	17
Grobogan	4 12	4 12	3 11	4 13	4 13	6 20	6 18	6 18	6 18	18

Demak	4	14	4	14	4	13	6	19	6	20	5	16	4	14	4	14	4	14	14
小 計	24	79	24	79	21	73	22	75	21	74	21	74	20	67	20	67	20	67	74
Kudus	3	8	3	9	3	9	4	12	4	12	4	12	3	10	3	9	3	9	9
Japara	3	9	3	10	4	10	3	10	4	10	4	9	4	9	4	9	3	9	10
Juwana	3	9	3	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Pati	7	20	7	20	7	29	6	26	6	22	6	21	5	21	5	20	5	20	20
Rembang	6	18	6	18	6	16	6	16	6	16	6	16	5	16	5	14	5	14	14
Blora	5	14	5	14	5	16	5	16	5	16	5	16	5	16	4	14	4	14	14
小 計	27	78	27	81	25	80	24	80	25	76	25	74	22	72	21	66	20	66	67
Banyumas	4	14	4	11	4	15	4	15	4	15	4	14	4	14	5	17	5	17	24
Purwokerto	3	10	3	10	3	10	3	9	3	9	3	11	3	11	—	—	—	—	
Purbolinggo	3	12	3	12	3	13	3	13	3	13	3	13	3	13	3	12	3	12	13
Banjarnegara	4	14	4	15	4	15	4	15	4	15	4	14	4	14	5	18	5	18	18
Cilacap	5	15	5	18	5	17	5	18	5	17	4	17	4	17	4	16	4	17	17
小 計	19	65	19	66	19	70	19	70	19	69	18	69	18	69	17	63	17	64	72
Karanganyar	6	17	6	17	5	17	5	17	5	17	5	17	4	14	—	—	—	—	
Wonosobo	5	21	5	21	6	20	6	20	6	20	5	18	5	14	4	13	4	13	13
Purworejo	3	9	3	9	3	12	3	12	3	12	3	10	3	9	5	16	5	16	16
Kutoarjo	5	15	5	15	4	14	4	14	4	14	4	13	3	8	—	—	—	—	
Kebumen	4	11	4	11	4	10	4	10	4	10	4	10	4	8	6	22	6	22	22
Magelang	7	24	7	28	7	26	7	26	7	26	7	25	7	23	6	22	6	22	23
Temanggung	5	15	5	19	5	17	5	17	5	16	5	16	4	14	3	12	3	12	12
小 計	35	112	35	120	34	116	34	116	34	115	33	109	30	90	24	85	24	85	86

中ジャワ 計	133	411	134	444	127	435	127	433	127	424	125	417	116	382	107	357	106	358	378
--------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

東ジャワ 縣 名	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1934	H. 1935	J. 1942	N. 1980
Surabaya	3 17	3 17	3 17	3 17	3 16	4 17	4 16	7 27	7 27	16
Sidoarjo	6 36	6 36	5 22	5 22	5 22	4 19	4 19	4 18	4 18	18
Mojokerto	8 45	5 28	4 20	4 20	4 20	4 19	4 19	4 17	4 18	18
Jombang		3☆ 17	4☆ 17	4 17	4 17	4 17	4 17	4 17	4 17	17
Gresik	3 11	3 11	4 12	6 18	6 18	4 15	4 15	— —	— —	18
小 計	20 109	20 109	20 88	22 94	22 93	20 87	20 86	19 79	19 80	87
Sidayu	3 12	3 12	4 13	— —	— —	— —	— —	— —	— —	
Lamongan	4 18	4 18	4 17	6 24	6 24	5 21	5 19	6 21	6 21	22
Bojonegoro	6 18	6 18	6 22	6 22	6 22	6 22	6 21	5 21	5 20	20
Tuban	6 18	6 18	6 21	6 21	6 21	6 21	6 20	5 20	5 19	19
小 計	19 66	19 66	20 73	18 67	18 67	17 64	17 60	16 62	16 60	61
Madiun	5 16	4 15	4 13	4 13	4 13	4 13	4 13	3 12	4 13	14
Magetan	6 18	6 22	4 15	4 13	4 13	4 13	3 12	3 12	3 12	13
Ngawi	5 13	5 15	4 13	4 15	4 15	4 14	4 14	4 13	4 13	13
Ponorogo	7 26	6 23	5 20	5 19	5 20	5 19	5 19	4 17	4 17	19
Pacitan	5 15	5 14	5 14	4 13	4 13	4 12	4 12	5 13	5 13	12
小 計	28 88	26 89	22 75	21 73	21 74	21 71	20 70	19 67	20 68	71
Kediri	5 15	5 20	5 21	5 20	5 20	5 21	5 19	4 18	4 18	22
Nganjuk	8 24	7 23	5 17	5 17	5 17	5 17	4 15	4 15	4 15	20

Blitar	4	10	4	12	5	16	5	18	5	18	5	17	5	17	4	16	4	16	19
Tulungagung	6	20	6	21	4	17	4	17	4	17	4	17	4	17	7	26	7	26	19
Trenggalek	5	17	6	24	5	17	5	14	4	13	4	13	4	12	—	—	—	—	13
小 計	28	86	28	100	24	88	24	86	23	85	23	85	22	80	19	75	19	75	93
Pasuruan	10	29	10	30	5	18	5	18	5	18	5	17	3	13	6	23	6	23	24
Bangil	6	19	6	20	4	14	4	14	4	14	4	14	3	11	—	—	—	—	
Malang	7	21	8	27	8	33	8	33	8	34	8	32	8	32	8	31	8	31	32
Probolinggo	5	14	5	17	5	13	5	13	5	13	4	15	3	12	7	25	7	25	25
Kraksaan	5☆	14	5☆	15	4☆	15	4☆	15	4☆	15	4	15	4	14	—	—	—	—	
Lumajang	4☆	10	4☆	12	4☆	13	4☆	14	4☆	13	4	13	4	13	4	13	4	13	15
小 計	37	107	38	121	30	106	30	107	30	107	29	106	25	95	25	92	25	92	96
Bondowoso	7	22	3	14	6	21	5	20	4	16	4	16	4	16	4	16	4	16	16
Besuki	5	14	5	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
Panarukan	6	14	6	14	4	14	4	14	4	16	4	16	4	14	4	14	4	14	14
Jember			4☆	15	6☆	20	6☆	22	7☆	24	7	24	7	24	7	23	7	25	30
Banyuwangi	2	4	2	6	2	6	3	10	3	10	3	9	4	12	4	12	5	14	18
小 計	20	54	20	63	18	61	18	66	18	66	18	65	19	66	19	65	20	69	78
Bangkalan			6	19	6	20	6	20	5	18	5	18	5	18	5	18	5	18	18
Sampang			4	12	4	12	4	12	4	12	4	12	—	—	—	—	—	—	12
Pamekasan	3	9	4	11	4	11	4	11	4	11	4	11	8	23	8	23	8	23	11
Sumenep			7	21	8	23	8	23	8	23	8	23	7	24	7	21	7	21	22
小 計	3	9	21	63	22	66	22	66	21	64	21	64	20	65	20	62	20	62	63
東ジャワ 計	155	519	172	611	156	557	155	559	153	556	149	542	143	522	137	502	139	506	549

出典・註 1. A.～J.の出典は註8。Nの出典は *Peta Indeks*。

2. 1874年には他にバウエフン (Bawean) 分州 (スラバヤ州、1郡、4分郡) がある。
3. 1942年の中ジャワ省の郡はカリムンジャワ郡 (Karimunjawa, ジュバラ縣、分郡なし) を含めると107。
4. 1980年はクチャマダンの数。市 (Kotamadya) と行政市 (Kota Administrasi) は當該縣に含めた。縣の名稱の一致にのみ基づくもので、舊縣域と現縣域が一致するかどうかは不明である。西ジャワの合計442はスバン (12クチャマダン)、プルワカルタ (7), フカジ (14) の3縣を含む。首都特別區大ジャカルタは便宜上舊バタワンヤワ縣とマースタル・コルネリス縣とした。中ジャワでは舊スワカルタ知事省に屬すると思われる6縣と1市を除く。スラバヤは縣なく、スラバヤ市のみ。

表に基づいてみる。

J.一九四二。『RA1942 I:172—174』に基づいて、H以降の若干の改編の結果が示されている。したがって嚴密には第一節で述べたように一九四二年ではなく一九四一年終わり頃である。表3では西ジャワを『Stb. 1934—17』、中ジャワを『Stb. 1935—632』、東ジャワを『Stb. 1935—487』に緯變化ならぬ。表5、6では『RA1942 I:172—174』と『Stb. 1941—46』による改編を加えてある。

なお、E.の場合を除いて、ほとんどの當該『Stb.』に州ないし省ごとの行政区畫一覽表が附載されており、その一覽表と矛盾する從來の規程は無効であると附記されている。

(b) 獨立パティ

表3～5の☆は縣ではなく獨立パティ區 (Zelfstandige Patitischap) である。縣の廢止と新設以上に省設立以前のジャワ島の地方行政機構を複雑にし、したがって表3～5を複雑にしているのが獨立パティ (Zelfstandige Patih) とその統治地域としての獨立パティ區である。

パティは通例は各縣に一人で、ブパティを補佐する (第四節(b)参照)。この通例とは一分州が一縣からなる場合である。

表6 全ジャワ（直轄領）の分郡とクチャマタン

	A. 1874	B. 1882	C. 1900	D. 1910	E. 1920	F. 1929	G. 1934	H. 1935	J. 1942	K. 1956	L. 1961	M. 1973	N. 1980	O. 1986
西	163	398	356	378	365	364	354	345	345	373	382	412	442	439
中	411	444	435	433	424	417	382	357	358	372	374	376	378	380
東	519	611	557	559	556	542	522	502	506	513	522	544	549	578
計	1093	1453	1348	1370	1345	1323	1258	1204	1209	1262	1282	1335	1374	1401

- 出典・註 1. A.～J., N.は表5に同じ。
 2. K., L., M., O.の出典は Kato 1989 : 112。
 3. K., L., M., O.の西ジャワは西ジャワ省と首都特別区大ジャカルタの合計。中ジャワは中ジャワ省の76%。76%とした根拠はN.において、中ジャワ省のクチャマタン総数496のうち、舊スラカルタ知事省に属するものが118、つまり約24%だからである。

分州と縣の關係はその他に、(1)分州に縣(プバティ)が存在しない場合、(2)分州が2つの縣からなる場合、(3)逆に縣が二つ(二例だけ三つ)の分州からなる場合がある(サラティガ縣は例外、下記(c)参照)。獨立パティが存在するのは(1)と(3)である。この場合パティは當然その分州における最上位の原住民官吏であり、その資格、権限、義務などは縣におけるプバティに準じて扱われた[ENI I:285]。(1)は具體的には「E. 1920」までのバタヴィア州のみであったと思われる。(3)の場合、プバティの直接管轄區域は第一の分州のみで、第二、第三の分州の區域の原住民の統合はパティにより行われる。このパティは形式上プバティに従属するとされる場合とそうでない場合があるように思われるが、いずれにせよ獨立パティは當該副理事官に直屬し、獨立パティの職制は縣ではなく分州に附随する制度である[ENI I:285]。

本稿の扱う時期には次の一五の獨立パティ職があった。

- ① アニエル(バンテン州セラン縣)。正式には「チレゴン、アニエル、クラマツトワトツ諸郡のパティ(Patih van de districten Cilegon, Anyer en Kramatwatu)」一八六二年に設置された[ENI (1st ed., 1896) I:36]。② メネス(同州バンデグララン縣)。正式には「メネス、チャリンギン、チバリウン諸郡のパティ(Patih van de districten Menes, Caringin en Cibitung)」『Stb. 1906—507』でチャリンギン縣の廢止にともない設置された。③ ④ ⑤ 『Stb. 1918—201』により廢止された。

③ バターフィア、④ タンゲラン、⑤ メーステル・コルネリス、⑥ バイテンゾルフ（バターフィア州）。③④⑥は『Stb. 1908—79』で新設された。③は「バターフィア市と衛星都市分州およびメーステル・コルネリス分州のパティ（Patih van de afdelingen Stad en Voorsieden van Batavia en Meester-Cornelis）」と稱し、この二分州が管轄區域だったが、きつなく『Stb. 1910—62』で⑤が設けられると、「バターフィア市と衛星都市分州」のみが管轄區域となった。『Stb. 1918—185』によりこの分州とタンゲラン分州が合併されてバターフィア分州となると、③は同分州のパティとなり、④は廢止された。③⑤⑥は『Stb. 1922—123』でバターフィア縣、メーステル・コルネリス縣、バイテンゾルフ縣の新設にともなうて廢止された（ただし後二縣の設立は『Stb. 1926—142』で實施された）。

⑦ チチャレンカ、⑧ スカプミ、⑨ タシクマラヤ、⑩ スカ普拉コロット（ブリアンガン州）。すべて『Stb. 1870—121—124』により設置された。⑦⑨⑩は『Stb. 1901—327』で各分州の廢止により廢止され、⑦はバンドゥン縣に、⑨はスカ普拉縣に、⑩はスカ普拉縣とリンバンガン縣（Limangan＝ガルット縣）に分割して吸收された。⑧は『Stb. 1921—256』でスカプミ縣新設（チアンジュル縣から分離）により廢止された。

⑪ サラティガ（スマラン州）。『Stb. 1895—35』でサラティガ縣廢止により設置。縣、獨立パティ區ともにサラティガ、アンバラワ兩分州を含み、二分州が獨立パティ區を伴わない一縣または一つの獨立パティ區からなる唯一の例外であった。『Stb. 1928—146』により中ジャワ省設立に伴う措置として廢止され、スマラン縣に吸收された。

⑫ ジョンバン（スラバヤ州）。『Stb. 1881—90』でジョンバン分州新設（モジョクルト分州から）にともない設置され、『Stb. 1910—553』でジョンバン縣新設（モジョクルト縣から分離）により廢止された。

⑬ クラクサアン、⑭ ルマジャン（以上マラン州）、⑮ ジャンブル（ブスキ州）。⑬⑭は『Stb. 1866—6』で設置、⑮は『Stb. 1883—17』でジャンブル分州新設（ボンドウォン分州から）にともない設置。『Stb. 1928—145』で各々クラクサアン縣新設（プロボリンゴ縣から）、ルマジャン縣新設（プロボリンゴ縣から）、ジャンブル縣新設（ボンドウォン縣から）により廢止され

た。

以上の一五例を見ると、いくつかの特徴がある。第一に地域的な偏在である。西ジャワに多く、中ジャワは一例だけであり、東ジャワでは⑫ジョンバン以外は、東端地方（Oosthoek、パスルアン以東）に限られる。西ジャワと東端地方で地方行政機構の整備が遅れたと言える。西ジャワはジャワ島で最も早くオランダ支配下に入った地域であるがゆえに、大量の私領地の存在やブリアンガン制度のような行政機構の近代化を阻む要因があった。東端地方は比較的人口希薄であり開發が遅れたことと関連があると思われる。

第二に、獨立パティ職の廢止には二つのタイプがあった。第一は②メネスや⑪サラティガのように、縣の廢止にともなうて設置され、やがて廢止される場合、つまり縣の最終的廢止に至る過渡的段階の場合である。第二は逆に縣の設立までの過渡的段階と見なしている場合である。この場合縣の設立とともに通常のパティ職が新たに設けられる。

第三に、上記第二點の第二のタイプとも關連するのだが、省の設立にともなうて全域に縣が設立されたことにより獨立パティ區が姿を消したことである（第二節(a)参照）。

(c) 縣の變遷

縣の設立と廢止について表3を補足しながら、省設立前の州區分に従って見ていきたい。

西ジャワのバンテン州では『Stb. 1899—192』により縣の名稱が變更（簡略化）され、北部縣セラシ（Noorder Regentschap Sarang）、中部縣バンデグラン（Midden R. Pandeglang）、南部縣ルバック（Zuider R. Lebak）、西部縣チャリンギン（Wester R. Caringin）が各々セラシ縣、バンデグラン縣、ルバック縣、チャリンギン縣と改稱された。このうちチャリンギン縣は『Stb. 1906—507』で廢止され獨立パティ區になった。

バタヴィア州は最も早く一七世紀に直轄領になり、いわば東インド政廳のお膝元と言うべき地域だが、それゆえにむ

しる縣は設立されていなかった。上で見たように一九〇八年になって初めて獨立パティ區が設置され、一九二〇年代に縣が設立される。

ブリアンガン州は『Stb. 1913—356』によりスカプラ縣はタシクマラヤ縣と改稱し、リンバンガン縣はガルト縣と改稱した。『Stb. 1915—670』でチルボン州ガル (Gulu) 縣がブリアンガン州に移され、名稱をチアミス縣と改められた。一九〇〇年から省設立までの間に縣の屬する州が變化した唯一のケースである。スカプラは『Stb. 1921—256』で獨立パティ區から縣になった。

中ジャワではスマラン州サラティガ縣は『Stb. 1895—35』で廢止され、獨立パティ區になった。ジュワナ縣は『Stb. 1901—301』で廢止され、パティ縣に編入された。バグレン州ウォノソボ縣は一九〇〇年以前はルドック (Ledok) 縣と稱していた。クドウ州クトアルジ^ニ縣は『Stb. 1933—526』で廢止され、ブルウォルジ^ニ縣に吸收された。『Stb. 1935—632』で次の三縣が廢止された。プカロンガン州バタン縣はプカロンガン縣に、バニユマス州ブルウォクト縣はバニユマス縣とバンジャルヌガラ縣に、バニユマス州カラニアナル縣はクドウ州クブメン縣に編入された。

東ジャワのスラバヤ州では『Stb. 1910—553』でジ^ニンバンが獨立パティ區から縣になり、同時にシダユ縣が廢止され、その四郡のうち二郡はグルシツク縣、二郡はラモンガン縣に編入された。パスルアン州プロボリンゴ縣は三分州からなっていたが、『Stb. 1928—145』で東ジャワ省設立にともなう措置としてクラクサアン、ルマジャン兩縣が設立された。ジ^ニンブルは『Stb. 1928—145』でボンドウォン縣の獨立パティ區から縣になった。

プスキ縣は『Stb. 1901—120』で廢止され、ボンドウォン縣に吸收された。『Stb. 1933—527』でドゥラ州サンバン縣が廢止され、バムカサン縣に吸收された。やうに『Stb. 1934—714』で次の四縣が廢止された。(1)グルシツク縣。その四郡のうち三郡はスラバヤ縣に、一郡はラモンガン縣に編入。(2)トルンガルツク縣。その四郡のうち三郡はトゥルンアグン縣に、一郡はパチタン縣に編入。(3)バングル縣。一分郡がマラン縣、一分郡がブルウォルジ^ニ縣に編入、他はパスルアン

縣に編入。(4)クラクサアン縣。プロボリンゴ縣に編入。

トゥルンアグン縣は『Stb. 1901—50』で元のグロウオ (Nerowo) 縣が改稱し、ガンジニャック縣は『Stb. 1928—145』で元のブルブック (Barbek) 縣が改稱したものである。

縣の廢止と新設を見ると、一九二〇年代までの縣の廢止はチャリンギン、サラティガ、ジュワナ、シダユ、ブスキの五例であり、一九一〇年までに限られる。これらの縣が廢止された事情は筆者には不明である。一九三〇年代の縣の廢止は第四節でも取り上げる。

縣の新設は西ジャワに四例(バターフィア、メーステル・コルネリス、バイテンゾルフ、スカブミ)、東ジャワに七例(ジョンバン、クラクサアン、ルマジャン、ジュンブル、そしてマドゥラ州の三例)、合計一一例ある。マドゥラの場合を除いて、いずれも獨立パティ區からの昇格である。マドゥラ島には早く直轄領になったバムカサン縣のほか、パネンバハン領 (Panembahansep) スムヌップと同マドゥラの二つの自治領があった。前者は『Stb. 1883—242』で廢止されて直轄領となり、スムヌップ縣が設立され、後者は『Stb. 1885—144』で廢止され、パンカラン縣とサンバン縣が設立された(田中 1985 参照)。縣の新設のうち、スカブミ縣とジョンバン縣が新設された事情は筆者には不明である。この二縣とマドゥラの三縣以外は、非常に早く直轄領になったバターフィア州と開發が相對的に遅れた東端地方であり、そこにおける縣の新設が省の設立にともなう措置であることは既に述べた。

日本軍政期に表 7 のような名稱の變更があったが、筆者の知る限り、縣の廢止や新設はなく、また縣の屬する州の變化もなかった。したがって縣の數は、オランダ時代末期と同じ六七である。ジャカルタ特別市の設置によりジャカルタ縣の六郡のうち二郡がジャカルタ特別市とされ、他の四郡からなるジャカルタ縣はその後タングラン縣と改稱された(第二節(a)参照)。

オランダ時代末期の縣名と現在(正確には一九八〇年センサス時)の縣名 [Peta Indeks] を對照すると(表 5 参照)、次の

表7 日本軍政期の州・縣の名稱變更

オランダ時代	日本軍政期
バターフィア州・縣・他	ジャカルタ州・縣・他 タンゲラン縣
パイテンゾルフ州・縣	ボゴル州・縣
メーステル・コルネリス縣	ジャティスガラ縣
グロボガン縣	プルウォダディ縣
ジュバラ・レンバン州	パティ州

出典 [1942年] 布告第27號, 29號, 30號, 46號 (= 治政令第15號), 治政令第16號, [1943年] ジャカルタ州告示第4號 [『治官報』1: 10-12, 21; 14; 27]

ような違いのあることがわかる。

西ジャワではバターフィア縣とメーステル・コルネリス縣が消滅している。上に述べたように日本軍政期にバターフィア縣はジャカルタ縣、さらにタンゲラン縣と改稱された。ジャティスガラ縣と改稱された舊メーステル・コルネリス縣の地域は、首都特別區大ジャカルタの擴大により、これに編入されたと考えられる。他方獨立後にスバン(Suban)、プルワカルタ(Purwakarta)、ブカシ(Bekasi)の三縣が新設されている。この新設の事情は不明だが、舊バターフィア州のこの地域は非常に私領地が多かったので、私領地の消滅と關係があると想像される。ともかくも、この間の變化は舊バターフィア州において一縣が消滅し、三縣が新設されたことになる。

中ジャワでは一九三〇年代に廢止されたバタン縣が復活しているだけである。

東ジャワではスラバヤ縣、パナルカン縣が消滅し、グルシツク縣、シトゥボンド(Situbondo)縣、トルンガルツク縣が出現しているように見える。しかし舊スラバヤ縣は現在のスラバヤ市およびグルシツク縣に相當し、舊パナルカン縣はシトゥボンド縣に相當する。したがって獨立後は、一九三〇年代に廢止されたトルンガルツク縣が復活しただけである。

すなわち現在の縣は一九三〇年代に廢止された縣のうち二縣が復活したと舊バターフィア州における改編を除いて、オランダ時代末期・日本軍政期の縣を繼承していると言える。

(d) 郡と分郡

郡長はダーネルス時代(一八〇八—一一年)にはウェダナ(Wedana)、デマンゲン(Demang)、マントリ・アグン(Mantri Agung)などと呼ばれていたが、ラッフルズ時代(一八一—一六年)にウェダナに統一された。當時は分郡はなく、ウェダナの下は村長であった〔Sutherland 1979:9〕。政廳管掌栽培の廢止が明らかになっていく一八六〇年代後半から一八七〇年代前半にかけて(とくに一八六七年と一八七四年)地方統治制度の様々な改革が行われた。その一環として郡行政整備のため『Stb. 1874—72』により一八七四年四月一日を以て、バタヴィア州を除きまた當面はブリアンガン州を除いて、ジャワの直轄領全域に統一的な制度として分郡が設けられることになる。すなわち郡長が統治する郡行政の下に分郡長が任命される(あるいは引き續き任命される)。分郡長は郡長に直屬する。郡長の下で統治行爲を行う分郡長以外の官吏はすべて廢止される。郡長には書記(Schrijver)一人と雇員(Opasser)四人、分郡長には雇員二人が附置される。郡長所在地の分郡は郡長が直接統治し、その他の分郡は分郡長が統治する。郡長はウェダナ、分郡長はアシステント・ウェダナ(Assistent-Wedana)と稱することなどが定められた。なお『Stb. 1874—73』に附載の州—縣または分州—郡—分郡の一覽表では、ほとんどの郡が二—四の分郡からなっている。

ブリアンガン州には『Stb. 1870—121—124』と獨自に郡—分郡制度が行われていたが、『Stb. 1875—99』の規程が適用された。この時一八七〇年の郡、分郡區分が繼承されたようである。バタヴィア州への同じ規程の適用はかなり遅れて、三人の獨立パティ職を設けたのと同じ『Stb. 1908—9』であった。「バタヴィア市と衛星都市分州」のコマンダント(Commandant)と稱した郡長四人、アジュダント(Adjutant)と稱した分郡長九人に代えて、他地域と同様の郡長二人、分郡長四人が任命された。メーステル・コルネリス、タンゲラン、バイテンゾルフ三分州のドゥマンと稱した郡長各四、三、六人およびバイテンゾルフ分州バイテンゾルフ郡のアシステント・ドゥマンと稱した分郡長一人が廢止され、他

地域と同様の郡長各四、三、六人、分郡長各八、四、九人が任命された。

こうして統一的な制度としての郡―分郡の行政区畫が私領地を除くジャワ島の直轄領全域に行われるようになった。

分郡は郡行政の補助的な位置づけであった。このことは上記の『Stb. 1874—72』と次のような『Stb. 1874—93』の内容から明らかである。すなわち分郡設立より先に『Stb. 1867—114』と「ジャワ・バドゥラの州行政の長への指示 (Instructie voor de regenten van gewestelijk bestuur op Java en Madoera)」⁷「ジャワ・バドゥラの郡長への指示 (Instructie voor de districtshoofden op Java en Madoera)」⁸が定められ、各々の職務、義務、特權、禁止事項などがある場合には漠然と、ある場合には細かく定められたが、分郡長に關しては『Stb. 1874—93』で「郡長への指示」を準用するとされている。こうした分郡の補助的な位置づけはオランダ時代を通じて變わらなかったようである。

日本軍政期にこの點での變化があったかどうか、筆者には不明である。また日本軍政期にも郡、ソン（舊分郡）、さらにク（行政村）の編成變えが行われていることは『治官報』と *Kan Po* から明らかであるが、資料が不完全なので（註1）参照）、これを逐一跡づけるのは今後の課題としておきたい。

オランダ時代の直轄領の郡の数が約三五〇、分郡の数が約一、二〇〇なのに對して、クチャマタンの数は漸増して現在は約一、四〇〇である（表6）。オランダ時代の郡がなくなり、分郡がクチャマタンになったという示唆が得られる。郡が廢止された事情は筆者には不明である。各縣の分郡とクチャマタンの數（表5のJとN）を比べると（廢止された縣が復活した場合は廢止前）、既述のような大幅な改編のあった舊バタヴィア州を除く六八縣のうち、三四縣でまったく同じで、差異一―二が一九縣、差異三―五が一〇縣であり、差異六以上は五縣にすぎない。⁽⁹⁾したがって、嚴密にはこの間の變化を明確にする必要があるとはいえず、現在のクチャマタンはオランダ時代の分郡（日本軍政期のソン）の繼承者と考えられる。しかし、郡の補助的なものという分郡の位置づけは、郡の消滅により、まったく異なったものになったはずである。

第四節 むすびにかえて

(a) 地方行政区畫の標準化

ジャワ島の直轄領における地方行政区畫の標準化の過程を振り返っておきたい。

まず一九世紀初頭以來のジャワ・マドウラの直轄領化を振り返ると、イギリス中間統治期に西ジャワのパンテン、チルボン兩王國が直轄領となり、またマタラム王國のクドゥ地域などが直轄領化された。ジャワ戦争後の一八三〇年にマタラム王國の領域の大幅な直轄領化があり、一八七四年の州でいえばバグレン、バニヌマス、マディウン、クディリの四州にあたる部分が直轄領化され、後のスラカルタ、ジョクジャカルタ兩知事省のみが自治領として残る。その後一八八〇年代にマドウラ島の二つの自治領が直轄領化されて、ジャワ・マドウラの直轄領と自治領が最終的に確定する。本稿の扱う時期の初期は、直轄領と自治領という植民地支配權の最も根本的な形態が完成する時期だったのである。

同じ時期に縣—郡—分郡という標準化された行政区畫のヒエラルキーをブパティ（—パティ）—郡長—分郡長という標準化されたヒエラルキーが統治するという、一九四二年まで（さらにその後まで）續く體制が成立する。この標準化の攪亂要因には王侯領と私領地の他に、獨立パティ區、バターフィア州の郡・分郡制度などがあつた。王侯領と私領地の消滅は獨立後まで持ち越されるが、その他は一九二〇年代後半の自治體としての省と縣の設立によって消滅する。これによってまたフォルクスラート—省評議會—縣・市評議會という代議制度の枠組みが（それらがいかに實質を伴わないものであつたとしても）形成され、倫理政策の重要な内容である地方分權政策と原住民自治政策が最終段階に入つた。この時地方行政区畫としてはヨーロッパ人行政の分州と監督官區が廢止され、省—州—縣・市—郡—分郡という標準化された地方行政区畫がジャワ島の直轄領全域に行き渡つた。

現在の省―縣・市―クチャマタンという地方行政區畫の編成は、日本軍政期に起源のある首都特別區大ジャカルタと州および郡がなくなったことを別にすれば、この一九二〇年代末に完成した制度を繼承するものである。

一九三〇年代半ばに、世界恐慌の影響下での全般的な歳出削減政策の一環として原住民行政區畫と行政官の大幅な削減が行われた。中ジャワで四縣、東ジャワで五縣が廢止され、全體で七六縣から六七縣へと一割以上の大幅減少があった。西ジャワに一例もないのが注目されるが、それはともかく、中ジャワと東ジャワだけで数えれば五八縣中の九縣（一六％）とさらに高い比率になる。郡の數は一九二九年から一九三五年の間に三八三から三四減つて三四九になり、分郡の數は一、三二三から一九減つて一、二〇四になった。中ジャワ・東ジャワで『Sib. 1929-2』では一縣あたりの郡の數の平均値は四・七で、事實、ほとんどの縣が四―六郡からなり、七郡の縣は二、八郡の縣は三であるが、一九三五年の平均値は（郡の數も減少したにもかかわらず）五・〇と上昇し、一〇郡の縣一、八郡の縣二、七郡の縣五となり、地方行政單位の標準化が損なわれている（西ジャワでは元來七郡以上の縣が多い）。

削減された區畫は一九四二年初めまではほとんど復活せず、獨立後も廢止された九縣のうち復活したのは二縣にすぎず、多くの縣でクチャマタン（舊分郡）の數も削減後とほとんど同じである。都市化の著しい地域などの例外はあるが、大勢としては、獨立後の縣とクチャマタンの數は世界恐慌により削減された一九三〇年代半ばのものを繼承していると言える。

(b) 原住民行政首長の人數

最後に、一九三〇年代の削減に関連して、原住民行政區畫の首長の人數に觸れておきたい。縣の數とブパティ（およびパティ）の人數は一致するが、パティが郡長職を兼務し、郡長が分郡長職を兼務する場合があるため、郡の數と郡長の人數、分郡の數と分郡長の人數は必ずしも一致しない。

パティは王國における宰相に相當するもので、ブパティの行政任務のほとんどを實際にはパティが行うことが多かった [Kleintjys 1929 II: 75 参照]。ラッフルズ時代にブパティは各一人のパティを有することが認められたが、當時はパティを持たないブパティも多かった [Sutherland 1979: 9]。上述の一八六七年の「ジャワ・マドウラのブパティへの指示」の第五條に「ブパティの死亡、病氣その他正當な支障のある場合」パティが職務を代行すると定められているので、この頃にはパティは一般化していたと考えられる。すべてのブパティにパティが附されるのは一八七四年であった [Sutherland 1979: 17]。このパティの役割が一九〇〇年以後幾分變化する。すなわち『Stb. 1900—220』と『Stb. 1874—72』の規程が改められ、縣首邑の所在地である郡の郡長の職務はパティが兼務するよう、實情に照らして可能な所から順次變えていくとされた。事實パティの郡長職兼務は一般化し、このようなパティはパティ・ウエダナ (Pati-Wedana) とよばれた。例外のだが分郡長職もあわせて兼務する場合さえあった。パティ・ウエダナは省設立後は原則的に廢止される。その後、全般的歳出削減の一環として、一九三〇年代半ばには再びかなり多くなるのだが、一九四二年には非常に少なくなっている。郡長の郡首邑所在地の分郡長職兼務は、分郡設立以來一貫してかなり多かった。ただしパティ・ウエダナ所在地の分郡にはふつう分郡長が配置される。

省設立以後の郡長と分郡長の人數を具體的に見ると、パティ・ウエダナは『RA1929』ではスムダン縣だけなので、郡長は三八二人である。しかし『RA1936』では郡の數が三四減り、パティ・ウエダナが二四人いるので (西ジャワ三、中ジャワ一四、東ジャワ七)、郡長は三八二人から三二五人へと五七人 (一五%) 減少している。中でも中ジャワの減少率は二六%という高率である。ただし『RA1942』ではパティ・ウエダナは三人に減り (中ジャワ一、東ジャワ二)、郡長は三四七人で、一九二九年と比べて三五人 (九%) の減少ということになる。

郡長の分郡長職兼務は、一九二九年は一九〇 (西ジャワ一九、中ジャワ九八、東ジャワ七三) だが、『RA1936』では一二七に増え (西ジャワ五〇、中ジャワ九三、東ジャワ八四)、『RA1942』では一二三 (西ジャワ五一、中ジャワ八九、東ジャワ七三) で

ある。したがって、分郡長の人数は一、一三三人から九七七人になり（一五六人、一四％減）、最終的には九九六人になった（一三七人、一二％減）。分郡削減数の少ない西ジャワで郡長の分郡長職兼務がとくに増えており、分郡長の減少率には西部、中部、東部三地域の間に著しい違いはない。

註

(1) 日本軍政期は『治官報』と *Kan Po* が基本的資料である。行政區畫の變更は州令によって定められ、この二資料（とくに後者）には行政區畫の變更に関する約一五の州令が見られるが、この二資料には州令のごく一部しか収録されていないので、資料として不完全と思われる。筆者の知る限り『全ジャワ回教状況調査』の第八章第一（一三九—一四〇頁）の他には日本軍政期の地方行政區畫の一覽表として使える資料はない。しかしこの一覽表も、二八の郡で分郡區分が記されていないのをはじめ、郡とソン（舊分郡）の配列に混乱があるなど、不完全である。この一覽表は日本軍政初期の一九四二年八月末のものだが、オランダ時代末期の二郡と五ソンがなく、逆にオランダ時代末期に存在しない一〇ソンがあり、七ソンの名稱がオランダ時代とは異なり、三ソンの所属する郡が異なる。

(2) オランダ領東インド全體は八つの第一級行政區畫に區分されており、外島には三知事省があった。スマトラ知事省は一〇州 (*Residentie*)、二七分州 (*Afdeling*)、一〇七分副分州 (*Onderafdeling*) からなり、ボルネオ知事省は二州、九分

州、三八副分州からなり、大東 (*Groete Oost*) 知事省は五州、二三分州、九四副分州からなる。これら三知事省は一九三六年に導入されたもので、それまでの第一級行政區には州と知事州 (*Gouvernement*、知事省と區別するため知事州と譯す) の二種類があり、これはど標準化されていなかった。

またオランダ時代末期でも副分州より下のレベルでは郡、分郡、行政村、自治領（規模は小さきまでである）の各々の有無が地域ごとに異なり、非常に複雑である (*Indisch Verslag 1941 II:464*)。本稿では外島には立ち入らないが、外島でも地方行政區畫の標準化が一定程度進められていたこと、および用語の違いから見てジャワの行政區畫とは異なる編成であったことがわかる。なお、『RA1942 I:194—207』に外島の自治領としてスマトラ知事省一四三、ボルネオ知事省一七、大東知事省一一六、合計二七六が擧がっている。ジャワ島ではスラカルタ、ジョクジャカルタ各二の四自治領だけで、これらはふつう王侯領と總稱される。獨立後はもちろん自治領は存在しない。

(3) 市の數は『Sib. 1934—687』と「バタヴィア市とメーステ

ル・コルネリス市が合併してバターフィア市となったため、最終的には一八である。

(4) 外島では二三の都市評議會と一〇の分州評議會 (Plaatselijke raad) が設立された [Visman Verslag I:134—135]。

(5) オランダ時代には當然インドネシア人が州長官になったことはなく、日本軍政期にも州長官 (Syndykookan) と特別市長 (Tokubetu-Siryoo) は當初すべて日本人であったが、一九四三年一月にジャカルタ州とボジョヌゴロ州で、翌年タドゥ州でインドネシア人が州長官になっている [早稻田: 168—169; 倉澤 1989: 2]。ちなみに一九四四年治政令第五〇號 (一九四四年一月二三日公布、二月一日施行) で各州に副州長官 (Huku Syndykookan) が設けられ、日本人が州長官の場合はインドネシア人が副州長官、インドネシア人が州長官の場合は日本人が副州長官とされた。

(6) このアフデーリング (Afdeeling) という言葉自体には分州という意味はなく、「下位区分 (とくに最上位の區分)」というほどの意味であり、中央官廳の部もアフデーリングと呼ばれ、また省の設立後は州がアフデーリングとも呼ばれている。ちなみにオランダ語のヘウウェスト (Gewest) という語は、「地域」や「地方」という意味の一般的な名詞として用いられることもあるが、行政用語としては第一級地方行政区を意味する。したがって省は同時にヘウウェストとも呼ばれ、省設立以前は州がヘウウェストであり、州評議會は Ge-westelijke raad と呼ばれた。ちなみに「場所」や「地方」を意味するプラーツ (plaats) の派生語プラーツルック (Plaats-

lijk) は行政用語としては通常縣レベルの行政を指し、縣の行政を Plaatselijk bestuur、縣評議會を Plaatselijke raad とも呼んだ。

(7) 監督官はオランダ東インド會社時代に起源があるが、地租制度と政廳管掌栽培の導入後、これらを擔當する官吏として地租栽培監督官 (Controleur van de landelijke inkomsten en cultures) と呼ばれていたが、『Sib. 1872—255』の一般行政に組み込まれて内務行政監督官 (Controleur bij het binnenlands bestuur) と稱されるようになった。

(8) 表 6 と表 5 の出典 (『Sib.』の年と番號のみ記す)。

A. 1874 全域 1874—73. バターフィア、ブリアンガン兩州は除外されているが、ブリアンガン州は『Sib. 1870—121—124』により (分郡長は二五〇人、分郡數は不明だが二〇〇強と推定される)、表 5 のバターフィア州は『RA 1875』による。次による修正を追加してある。チルボン州 1875—117. スーラン州 1877—193. スラバヤ州 1879—107. パスルアン州 1878—194. プロボリンゴ州 1882—15. バンケン州 1874—161. 1876—1. マディウン州 1878—205. タディリ州 1874—145. 1876—292.

B. 1882 バンテン州 1882—266. バターフィア州 1879—42. 1881—11. 1886—3. タラワン州 1882—284. ブリアンガン州 1882—252. チルボン州 1883—285. トゥガル州 1885—2. フカロンガン州 1884—28. スマラン州は變化なし。ジュバラ州 1882—106. レンバン州は變化なし。スラバヤ州 1881—90. パスルアン州 1883—120. プロボリンゴ州 1882—205.

ノスキ州1882—103, 1882—123, 1883—287, ヴィーナス州1883—113. バンレン州は變化なし。クディッ州1883—141. プチーウン州1883—20. クディリ州1883—20. フドゥラ州1883—243, 1885—145.

C. 1900 ヴンテン州1900—223. ヴターフン州1901—63. プリフンガン州1901—327. チルボン州1900—310. ナカロンガン州1901—68. スラン州1901—301. ノンベン州1900—308. ヴニティス州1900—308. クディッ州1901—235. スラバヤ州1901—328. バスルアン州1901—85. ノスキ州1901—120. プチーウン州1900—306. クディリ州1901—50. フドゥラ州1900—239.

D. 1910 ヴンテン州1906—507, 1908—79, 1910—456. ヴターフン州1913—38. プリフンガン州1913—356. チルボン州1910—407. ナカロンガン州1905—170, 1911—2. スラン州1908—463. ノンベン州は變化なし。ヴィティス州1900—308, 1911—1, 1913—207. クディッ州1901—235, 1904—418. スラバヤ州1910—553. バスルアン州1901—85, 1912—267. ノスキ州1913—104. プチーウン州1911—87. クディリ州1911—238. フドゥラ州は變化なし.

E. 1920 ヴンテン州1918—201, 1922—60. ヴターフン州1922—123. プリフンガン州1921—256. チルボン州1921—502, 1922—43. ナカロンガン州1920—45. スラン州1911—206, 1920—134, 1920—430, 1920—816, 1921—183. ノンベン州は變化なし。ヴィティス州1918—175. クディッ州1921—183. スラバヤ州1918—616. バスルアン州

1914—65, 1923—14. ノスキ州1920—878, 1921—444, 1921—513. プチーウン州1921—135. クディリ州1919—684, 1921—135. プレハティ州1920—246.

F. 1929 全滅1929—2.

G. 1933/1934 西ジャワ省1934—17 (表6のbは1935—123にも變化なし). 中ジャワ省1933—251. 東ジャワ省1934—58.

H. 1935 (表5の6のb) 西ジャワ省1935—123. 中ジャワ省1935—632. 東ジャワ省1935—487. 東ジャワ省は1934—714であるが、大差なので1935—487を擧げた。

J. 1942 西ジャワ省1935—123, 1936—602, 1937—679, 1939—683. 中ジャワ省1935—632, 1936—664, 1937—343. 東ジャワ省1935—487, 1936—202, 1941—46.

(6) 差異六以上の五縣のうちボホル、バンドタン、スマランは獨立後の都市化の著しいところである。同様の事情のあるスラバヤで増えていない理由は不明である。チアミス縣(十一三)とヴィニマス縣(十七)でクチャヤタンが大幅に増えている理由は不明である。

参考文献

治官報：ジャワ軍政監部、一九四二—一九四五。復刻版 龍溪書舍 一九八九。

倉澤 1989：倉澤愛子「治官報・KAN PO 解題」『治官報・KANPO』巻1、龍溪書舍。

全ジャワ回教状況調査書：治集團司令部、「ジャカルタ」、一九四

- 田中 1986: 田中則雄「一九世紀インドネシアの村落社會——土地の共同體的占有化をめぐる」『南方文化』二二。
- 土屋 1988: 土屋健治「インドネシアの社會統合——フロンティア空間についての覺え書き」平野健一郎他『アジアにおける國民統合——歴史・文化・國際關係』東京大學出版會。
- 永積 1980: 永積昭『インドネシア民族意識の形成』東京大學出版會。
- 早稻田: 早稻田大學大隈記念社會科學研究所編『インドネシアにおける日本軍政の研究』紀伊國屋書店 一九五九。
- Asia Raya*: シャム新聞社 Jakarta, 一九四二—一九四五。
- ENI: Encyclopaedie van Nederlandsch-Indië*, (1st ed, 4 vols., 1896—1905), 2nd ed., 8 vols (4 vols. 1917—1921 and 4 supplements 1927—1939).
- Indisch Verslag*: Centraal Kantoor voor de Statistiek, Batavia, 1930—1941.
- Kan Po* [官聲]: Gunseikanbu [軍政監部], Jakarta, 1942—1945. 復刻版 龍溪書舍 一九八九。
- Kato 1989: Kato, T., "Different Fields, Similar Locusts: Adat Communities and the Village Law of 1979 in Indonesia", *Indonesia*, 47, 89—114.
- Kleinijes, Ph. 1929: *Staatsinstellingen van Nederlands-Indië*, 5th ed., 2 vols., Amsterdam.
- Peta Indeks: Peta Indeks Kabupaten / Kotamadya dan Kecamatan di Indonesia*, Seri P, No. 1: *Hasil Pemetaan Sensus Penduduk 1980*, Biro Pusat Statistik, Jakarta, n. d.
- RA: *Regeringsalmanak voor Nederlandsch-Indië*, Batavia, 1822—1942.
- Statistiek Indonesia* 1988: Biro Pusat Statistik, Jakarta, 1989.
- Stb.: *Staatsblad van Nederlandsch-Indië*, Batavia, 1816—1942.
- Sutherland, 1979: Sutherland, H., *The Making of a Bureaucratic Elite: The Colonial Transformation of the Javanese Priyayi*, Singapore, Heinemann Educational Books.
- Visman Verslag: *Verslag van de Commissie tot Bestudering van Staatsrechtelijke Hervormingen*, 2 vols., Batavia 1941 and 1942; reprint, New York, 1944.

purpose. It was due to the reaction against his policies that the qualification system was praised in the later periods.

When we use the term 'financial officials' for the Sansi bureaucrats, it is necessary to distinguish between the periods before and after the establishment of the qualification system. In this paper, the term does not refer to those who assumed in financial offices after the establishment of the qualification system.

ADMINISTRATIVE DIVISIONS OF JAVA

—Historical Outline—

FUKAMI Sumio

Indonesia has now unified local administration system all over the country, down to village level, due to the high-handed national integration policy of the government of the Republic of Indonesia. As a preliminary research to the historical background of the unification, this paper traces the changes of administrative divisions in a concrete way in Java, where the model of present system was established, from 1874, when the standardized sub-district system was introduced to most of the area, to 1945, when Indonesia declared her independence. It was at the end of the 1920's that as a result of the decentralization policy, started in the beginning of this century, the unified system of administrative divisions prevailed in Java, except the Principalities. Of this Province-Residency-Regency / Municipality-District-Subdistrict system, the Regency and District have been abolished after independence, and the Subdistrict has become today's District (Kecamatan). The number of the Regency and Subdistrict were decreased by about 10 percent in the middle of the 1930's. Most of today's Regencies and Districts are same as the curtailed ones.